



あるイタリアの小さい町に古典的な雰囲気の良い美しい教会堂がありますが、この教会の壁には有名な絵がかかっています。旧約聖書に出てくるいろいろな人物、たとえば、エレミヤ、モーセ、ダビデ、イザヤのような人々の顔が一つの方向に向いている絵です。ところが、その向かい側の壁にはイエスキリストの絵がかかっています。これらの絵は、旧約聖書に出てくるすべての人物がただ一人、イエスキリストの出現（しゅつげん）をみあげて、待ち望んでいたということを証言しています。なんとすばらしい事実なのかも一度、考えてみましょう。

イザヤ預言者は本文のメッセージをイエス様の誕生の前、B.C.759年に予言しました。

‘処女がみごもって、男の子を産みます。その子は全世界を治め、救うために苦難をせおっているのである。’ことを予言しました。6節の御言葉を読んでみましょう。“**ひとりのみどりごが、私たちのために生まれる。ひとりの男の子が、私たちに与えられる。主権はその肩にあり、その名は「不思議な助言者、力ある神、永遠の父、平和の君」と呼ばれる。**”(6節)

なんとすばらしい御子でしょうか。その肩には主権があります。これはこの御子が宇宙を治め、世界と民族と人類の歴史を治める力をもっておられるということです。つまり、個人と民族、あらゆる国の運命がこの御子の手にかかっているという意味なのです。

イエス様がよみがえられた後、天に昇られる直前弟子たちを集め、与えられた言葉の中にこれがあります。

“**イエスは近づいて来て、彼らにこう言われた。「わたしには天においても、地においても、いっさいの権威が与えられています。」**

(マタイの福音書28:18)

イエスキリストは天と地のすべての権威をもっておられた方でした。聖書はこのイエスキリストを王として描写しています。イエス様が処女マリヤにみごまれたその夜、御使いが現れたこの御言葉を伝えました。

ルカの福音書1章32-33節

“**その子はすぐれた者となり、いと高き方の子と呼ばれます。また、神である主は彼にその父ダビデの王位をお与えになります。彼はとこしえにヤコブの家を治め、その国は終わることがありません。**”

イスラエルの人々に一番尊敬する王はだれなのかを聞くと、彼らはダビデ王だと言います。ところが、聖書は“このダビデよりさらにすばらしく、さらに知恵ある、そしてより多くの人々に影響を与える一人の王が歴史に現れる”と言います。

最後の新約聖書である、ヨハネの黙示録をみると、ふたたび来られるキリストを“王の王”だと描写しています。マタイの福音書25章には、ふたたび来られるイエス・キリストの栄光の場面が描かれています。すべての御使いととも神の民を連れて、栄光の中の歴史の幕を閉じるために再び来られるその方、その方は王として再び来られると書かれています。クリスマスはこの王の到来を宣べ伝える日なのです。

その肩には世界を治めるほどの力のある、その方はみどりごとして来られました。しかし、もし、その方がつるぎを持って、力と武力で巨大な軍事を連れて来られたのであれば、我々は彼に近づけたのでしょうか。しかし、イエス様はあのエルサレムのお城でもなく、人間世界の宮殿でもありませんでした。ベツレヘムと言う小さい町の一番低いところの馬小屋で生まれました。これは確かに逆説ですね。金持ちでも、貧しいものでも、だれでもその方に訪ねるように、一番低いところで、みどりごとして来られました。

イザヤ預言者は予言を続きます。このすばらしいみどりごの名前を何と言いますか。日本語聖書には4つの言い方で紹介されていますが、その前にイエス様に対するもう一つの表現があります。

1. 驚くべき(Wonderful)御名イエス・キリスト

この名前はとつてもくすしい、驚くべき方ということです。人類に現れているイエス様の正体について、その存在について驚くべきという単語以外説明できる方法はないということです。聖霊様をとおして処女マリヤの体通して生まれたイエス様の誕生を人間の言葉で説明できるのでしょうか。そして、イエス様の生涯はなんとすばらしいのでしょうか。その方の行われた奇跡と愛と御言葉による教えはなんとすばらしいのでしょうか。その方の死はどんなにすばらしい死でしょうか。この方の悲劇的な死をとおしてどれだけ世界の多くの人々が感動と衝撃を受け、新しい人生への決心をされたのでしょうか。このような死はどこにあるのでしょうか。その方の復活はどんなに驚くべき出来事でしょうか。聖書のとおり、三日目に罪と死の力をやぶって、墓の扉をあけてふたたび生き返られたイエス・キリスト、全世界はこれを記念して生きておられるイエス・キリストを黙想します。そして、その方の再臨はなんとすばらしいのでしょうか。栄光の中で、御使いたちとともに天地と歴史を裁くために来られるその方！

マタイの福音書13章54節を読んでみましょう。

“それから、ご自分の郷里に行って、会堂で人々を教え始められた。すると、彼らは驚いて言った。「この人は、こんな知恵と不思議な力をどこで得たのでしょうか。」

マタイの福音書 22章22節にはイエスを敵対していたパリサイ人たちでさえもこう言っています。“彼らは、これを聞いて驚嘆し、イエスを残して立ち去った。” マタイの福音書7章にはイエ様が山上での教えを終えた後、群衆たちの反応がどうだったのかが書かれています。

“イエスがこれらのことばを語り終わられると、群衆はその教えに驚いた。というのは、イエスが、律法学者たちのようにではなく、権威ある者のように教えられたからである。”(28,29節)

マルコの福音書1章27節をみて下さい。

“人々はみな驚いて、互いに論じ合って言った。「これはどうだ。権威のある、新しい教えではないか。汚れた霊をさえ戒められる。すると従うのだ。」

赦しを与えるイエス様の権威の前で人々はどんな反応を示しているのかルカの福音書5章26節にはこう書かれています。

“人々はみな、ひどく驚き、神をあがめ、恐れに満たされて、「私たちは、きょう、驚くべきことを見た。」と言った。”

ソクラテスは 40年間、プラトンは50年間、アリストテレスは40年間、自分たちの弟子たちを教えました。

しかし、イエス様はたった3年間、弟子たちに教えました。なのに、イエス様の3年間の働きは130年間の古代の偉大な哲学者たちの教えとは比べられないほどその影響は大きかったです。イエス様は一枚の絵も描いたことがありません。しかし、ラファエルとミケランジェロの優秀な絵はイエスキリストから靈感を受けて描かれました。イエス様はたった一行（いちぎょう）の詩も書かれませんでした。しかし、ダンテとミルトン、そして世界の偉大な詩人たちの数百編（すうひゃくへん）の詩がイエス様によって靈感を受けられた書かれました。イエス様は海外に旅行されたこともありません。しかし、全世界は今日その方から大きな影響を受けています。

イエス様は一冊の本も書いてみませんでした。全世界図書館の半分以上の本が直接的に、間接的にその方と関連されています。イエス様はたった一曲も作曲されませんでした。しかし、ハイドン、バッハ、ヘンデル、ベートーベン、そしてメンデルスゾーンはそれぞれイエス様を賛美するために賛美歌、交響曲（こうきょうきょく）、オラトリオなどで才能をみせてくれました。くすしい御名イエス・キリスト!力の名前、イエスキリストが我々に与えられた日がまさにクリスマスなのです。

2. 真の相談者(Counselor)なるイエス・キリスト

イエス様は我々の助言者になるということです。今日の時代はどれだけ相談者を必要としているのでしょうか?

不安、むなしさ、孤独のようなたましの病にかかっている現代人たちに相談にのってくれる人は切実に必要な存在になります。我々には自分の心、自分の問題を夜通し聞いてくれる相談者、それだけではなく解決してくれる相談者が必要なのです。しかし、我々には叫ぶ広場がありません。さびしいです。追い詰められています。不安です。いくら人の相談者のドアをたたいても根本的な解決策がありません。つまり、現代相談心理学の一番の問題は相談の効果があまりないということです。相談学は発達しましたが、相談学の悩みはどんどん多くなってきています。

しかし、イエス様はこう言われました。“わたしは父にお願いします。そうすれば、父はもうひとりの助け主をあなたがたにお与えになります。その助け主がいつまでもあなたがたと、ともにおられるためにです。わたしは、あなたがたを捨てて孤児にはしません。わたしは、あなたがたのところに戻って来るのです。主ご自身がこう言われるのです。「わたしは決してあなたを離れず、また、あなたを捨てない。」 見よ。わたしは、世の終わりまで、いつも、あなたがたとともにいます。”(ヨハネ14:16,18,ヘブル13:5,マタイ8:20”)

もう一つのイエス様の名は相談者です。我々にいのちを与え、我々を造られた方が、同時に我々を治すこともできます。創造主なる神様が我々の苦しみ、なやみ、問題を知らないのでしょうか。イエス・キリストの御名は真のカウンセラーです。

3. 全能なる神様(Mighty God)の御名イエスキリスト

人類に与えられたイエス・キリストは普通の赤ん坊ではなくその本質において神と同じみどりごです。その神様がみどりごとして来られるなんて!なんとすばらしいことでしょうか。

現代はこの逆説を理解し切れません。もし、神様が天使たちを集合させ、軍隊を率（ひき）いて、剣と誘導弾（ゆうどうだん）と核武器（かくぶき）で武装してして“悔い改めろ。わたしを信じなさい”と言われたならどんなに恐ろしかったでしょうか。しかし、神様は馬小屋にてお生まれになりました。どんな人でも、だれでもみどりごとして来られた神様に会うことができます。ヨハネの福音書1章18節で使徒ヨハネはこう言いました。

“いまだかつて神を見た者はいない。父のふところにおられるひとり子の神が、神を説き明かされたのである。”

赤ん坊で来られたイエスキリストでしたが、その方は真の神であり、“MIGHTY”全能なる方であります。

この意味はすべての力を言います。私たちがこの世で生きるために知恵だけあってははいけません。力も必要なのです。知識、物質、権威などを力だと思ふ方々は多いと思います。しかしこれらのすべての力は全部過ぎ去る影のようです。しかしイエス様は全能の神様(Mighty God)なのです。私たちの痛みをともにしてくださる方だけではなく私たちのすべての苦しい人生の環境でさえ変えてくださる力ある主なのです。それだけではなく罪と死の力をやぶり、私たちに暗闇から光に、ハデスつまり地獄から天国に、死からいのちに移して下さった方がまさにイエスキリストなのです。

この世に来られたその力主の神様であられるイエスキリストが私たちを呼び寄せています。

“すべて、疲れた人、重荷を負っている人は、わたしのところに来なさい。わたしがあなたがたを休ませてあげます(マタイの福音書11:28)”

イエス様がこの地に来られてから歴史は真つ二つになりました。人類はイエス様が誕生された日を基準にしてB.C.(Before Christ)とA.D.(After Christ)に歴史が分かれたのです。2013年現在も全てを治めておられる全能の神であられるイエスキリストは今も生きておられ、共におられます。

4. 永遠の父(Everlasting Father)御名イエスキリスト

まさにこのみどりごが父です。父が子になって来られたのです。イエス様が来られる前、旧約ですでに父として表現されているところがどんなにすばらしいのかわかりません。その方は哲学者の神ではありません。その方は漠然として絶対者や主権者ではありません。その方は永遠の父です。神をただ神として呼ぶ人の信仰と、父として呼ぶ人々の信仰はまったく違う差があります。

イエス・キリストを救い主として受け入れたとき、魂の深いところから神様に向かって初めてささげられる告白があればそれは何でしょうか。“父なる神様”です。我々のあやまちも罪も赦してくださる父、強い腕で我々を守ってくださる父、我々の問題を解決してくださる力ある父、愛の腕で我々を抱きしめ、慰めてくださる父!

イエス・キリストを信じる者ならイエス様が教えてくださったこの祈りをささげることができるでしょう。

“天におられる我らの父よ。!”

神様はこう言われます。マタイの福音書6:26節です。

“空の鳥を見なさい。種蒔きもせず、刈り入れもせず、倉に納めることもしません。けれども、あなたがたの天の父がこれを養っていてくださるのです。あなたがたは、鳥よりも、もっとすぐれたものではありませんか。”

マタイの福音書7章7-11節ではこう言われます。

“求めなさい。そうすれば与えられます… あなたがたは、悪い者ではあっても、自分の子どもには良い物を与えることを知っているのです。とすれば、なおのこと、天におられるあなたがたの父が、どうして、求める者たちに良いものを下さらないことがありましょう。”

5. 平和の王(Prince of Peace)なる御名イエスキリスト

中世時代ある修道院の前で、神父の服装をしているある人が門をたたきます。管理人が門をあけながら“どなたですか?”と尋ねます。“私は平和を捜しています。”この人は有名な作家になったダンテでした。ダンテは聖書を読みながら、イエス様に出会い、人生のまことの平安と平和を見つけたと告白します。

2000年前、みどりごイエス様が誕生されたその夜、御使いたちが現れて歌いながら叫んだ内容はなんでしたか。

“いと高き所に、栄光が、神にあるように。地の上に、平和が、御心にかなう人々にあるように。”(ルカ2:14)

実際、この御言葉は慎重に理解しなければなりません。人々はこの箇所を短くして“天には栄光、地には平和が”と言います。しかし、本当に地に平和がありますか? イエス様がこの地に来られた以後、今日まで絶えず戦争と苦しみ、飢饉は消え去っていません。なのに“地の上に、平和が、御心にかなう人々にあるように”と言われました。イエス様が再び来られるまで、戦争と飢饉も、苦しみは続くでしょう。涙もうめきも続くでしょう。しかし、平和の王として来られたイエス・キリストを受け入れ神様の御心にかなった人々には平和があるでしょう。世はさわがしくても、私の心には平安があります。イエス・キリストを信じる人々が決して苦しみと試練に会わないので平安であるわけではありません。クリスチャンも悲劇に会うときもあります。聖書にもそう書かれています。

“わたしがこれらのことをあなたがたに話したのは、あなたがたがわたしにあって平安を持つためです。あなたがたは、世にあっては患難があります。しかし、勇敢でありなさい。わたしはすでに世に勝ったのです。”(ヨハネ16:33)

しかし、イエス様はイエス様を信じる者にこのような平安を約束されました。(ヨハネ14:27)

“わたしは、あなたがたに平安を残します。わたしは、あなたがたにわたしの平安を与えます。わたしがあなたがたに与えるのは、世が与えるのとは違います。あなたがたは心を騒がしてはなりません。恐れてはなりません。”

ピリピ人への手紙4:7節もあります。

“何も思い煩わないで、あらゆるばあいに、感謝をもってささげる祈りと願いによって、あなたがたの願い事を神に知っていただきなさい。そうすれば、人のすべての考えにまさる神の平安が、あなたがたの心と思いをキリスト・イエスにあって守ってくれます。”

みなさんは今年どんな心構えでクリスマスを迎えようとしているのでしょうか? 2000年前、神様であられる方がみどりごとして来られたイエスキリストは我々にすばらしい名前で、我々の真のカウンセラーとして、全能なる神、永遠に存在される父、平和の王として来られました。我々にはこの世を生きる間、苦しみも絶望も、うめきもあるでしょう。しかし、我々は幸せにもなり、平安でいられます。この地に来られたイエス・キリストを私の神として、私の救い主として信じ受け入れる瞬間、イエス・キリストは私の永遠のカウンセラーとして、全能なる神として、永遠に存在する父として、平和を与えてくださる王として我々といつまでもともにおられます。イエス様を黙想する待降節に、そして来るクリスマスにイエス・キリストの名前に託されているすばらしい祝福がクリスマンプレイズチャーチのすべての家族の上に臨まれ、経験されますよう祝福しお祈り申し上げます。アーメン!



【アドベントの祈り】

春を待ち望む冬のように、
貧しい心を持って再び来られる主を待ち望みます。

飼葉おけのように、自分を低くし、汚れた心を空にしてきよめ
再び来られる主を待ち望みます。

主だけにささげる贈り物を用意し
再び来られる主を待ち望みます。

自分の利益だけを追い求めていた目を閉じ
再び来られる主を待ち望みます。

握りしめていた欲張りの手を開いて分け与え、共に手を取り合って
再び来られる主を待ち望みます。

高ぶりを砕いてへりくだり、再び来られる主を待ち望みます。

思い煩いを捨て騒がしいしゃべりを捨てて、悔い改めと涙をもって
再び来られる主を待ち望みます。

失われた信仰の始めの愛を取り戻すために
再び来られる主を待ち望みます。

ひそかに捨てた私の十字架を再び負い再び来られる主を待ち望みます。

2000年前にこの地に来られた主よ！
マラナタ！再び早く来て下さい。

この降誕の季節に、あなた主イエスキリストを
深く黙想し、切に待ち望みます。

イエス・キリストの御名によってお祈り致します。アーメン！